

*** 今日の健康 (6月) ***

< 帯状疱疹の発症予防に水痘ワクチン (その3) >

水痘ワクチンの安全性

帯状疱疹は年齢が高くなり、VZV 特異的細胞性免疫が低下している人ほど発症しやすく、帯状疱疹後神経痛も重篤になりやすい。「生活に支障を来すこともあるので、50 歳以上で帯状疱疹を未発症の人には積極的に接種を勧めています。

東京慈恵会医科大学皮膚科学元教授本田まりこ (まりこの皮膚科、横浜市鶴見区)

水痘ワクチンは、悪性腫瘍や免疫抑制剤使用など細胞性免疫の機能低下があるハイリスク児の発症予防を目的に開発されたもの。生ワクチンだが、安全性も折り紙付きです。「既に健康な小児には定期接種化されており、接種後の副反応の報告も軽微なものがほとんど」と藤田保健衛生大学小児科主任教授の吉川哲史氏は話しています。



接種による水痘の発症はまれ

安全性の高いワクチンではあるが、免疫抑制剤の使用者やヒト免疫不全ウイルス (HIV) 感染者など、「免疫機能に障害のある人への接種は十分に注意して行う必要がある」と吉川氏。万が一、ワクチン接種により水痘を発症した場合、水疱が現れるのは接種から 1~2 週間後だ。発症したとしても、抗ウイルス薬で治療ができる。「接種する際には念のため、接種後に水疱が現れたら来院するよう伝えている」と本田氏は説明する。

とはいえ「ワクチン接種により、水痘を発症するケースはごくまれだ」と本田氏。

前述のように、厳密に言えばこのワクチンは帯状疱疹予防に適応があるわけではない。そのため、阪大微生物病研究会理事長の山西弘一氏は、「水痘ワクチンの帯状疱疹予防への適応拡大をできるだけ早い時期に実現したい」と話している。

帯状疱疹の発症率はワクチン接種群が 1000 人年あたり 5.42、対照群は 11.12 で、ワクチンの接種が発症を 51.3% (44.2-57.6) 抑えることが明らかになっています。

また、ワクチン接種群 27 人、対照群 80 人が帯状疱疹後神経痛を発症し、その発症率は 1000 人年あたり 0.46 人と 1.38 人で、接種により発症率は 66.5%減少しました。

記事紹介 2015.2月号日経メディカル

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861
天文台通り多摩信用金庫のななめ裏